

目

次

口 絵 目 次

執筆者一覧

第一章 概 説

第二章 原始林に生きる

第一節 縄文時代の遺跡と遺物

| | |
|--------------------------------|----|
| 一 過去をどのように調べるか | 5 |
| 二 悠久なる自然史 | 6 |
| 三 人類の登場 | 7 |
| 四 氷河時代を生きた人類 | 7 |
| 五 縄文時代以前の白馬村の遺跡 | 11 |
| 六 縄文時代遺跡の概要 | 14 |
| 七 滑石製玉類の製作と前期の遺跡 | 22 |
| 八 ヒスイの玉作りと中期の遺跡 | 26 |
| 九 狩猟採集から水稻耕作へ移りかわる晚期の遺跡と 遺物 | 33 |

第四章 古墳を造った人たち

第一節 古墳の時代

| | |
|----------------|----|
| 第一節 古墳の時代 | 45 |
| 第二節 白馬の古墳とその分布 | 50 |

東佐野支群 土橋古墳群 三日市場古墳群 向山古墳群
城嶺古墳群 小丸山古墳群

第三節 集落のありさまと人びとの生活

| | |
|---------------|----|
| 一 神城にあつた古代の集落 | 65 |
| 二 住、衣、食 | 68 |

第四節 ヤマト政権への編入

72

第三章 稲を作る人たち

第一節 弥生の人と暮らし

第二節 変わっていく社会と進む文化

37

第三節 古墳を造った人たち

44

第五章 武士の支配と動乱の時代

プロローグ 77

第一節 中世北安曇地方の概観 78

一 中世とは 78

二 中世初頭の安曇地方 79

三 中世における仁科氏の動向 80

第二節 仁科氏の世系と一族・被官の分布 84

一 仁科氏の出自 84

二 仁科氏の世系 88

三 仁科氏の一族・被官の分布と勢力圏の消長 91

第三節 千国庄からみた庄園制の展開 100

一 千国庄の成立と伝領 100

二 千国庄の支配 103

三 庄園の風景 104

第四節 仁科氏と沢渡氏、飯森氏、千国氏 106

一 沢渡氏 106

二 飯森氏 106

第五節 戦乱の時代 114

一 南北朝の争乱 115

二 戦国の争乱 118

三 正統仁科氏の滅亡 121

四 仁科盛信による統治 123

第六節 戦国の収束 129

一 再び争乱の時代へ 129

二 小笠原貞慶の支配確立 131

第七節 沢渡盛忠物語 135

一 プロローグに代えて 135

第八節 土豪たちの城館跡 144

一 城館跡の歴史的意味 144

二 白馬村の中世城館跡 144

1 塩島山城跡 150

3 西通山城跡 144

5 立の間浅間山山城跡 144

7 嶺方山城跡・居館跡 144

8 堀之内城領山城跡 144

9 三日市場沢渡氏居館跡と大宮山城跡 144

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|------------------|-------------|-----------------|------------|------------------|-------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-----------|----------|
| 10 東佐野迎場山城跡東佐野居館跡 | 11 曰影大左右山城跡 | 12 曰向大左右山城跡 | 13 佐野坂山城跡 | 14 佐野城平山城跡 | 15 沢渡たて山城跡 | 16 飯田月夜沢山城跡 | 17 飯田秋葉山城跡 | 18 飯森一夜山城跡 | 19 内山ケイト山城跡 | 20 内山大鹿山城跡 | 二 村々の始まりと推移 | 3 戸田（松平）氏 | 4 松平氏 |
| 1 戸田氏 | 5 堀田氏 | 6 水野氏 | 7 戸田氏 | 8 桐山村 | 9 沢渡村 | 10 飯田村 | 11 深沢空疇新田村 | 12 畠方新田村 | 13 塩島村 | 14 塩島新田村 | 15 梶之内村 | 16 飯森村 | 17 細野新田村 |
| 第一節 プロローグ | 第二節 第六章 江戸時代を生きる | 第三節 中世の文化財 | 第四節 村落の成立と農民の生活 | 第五節 村の制度 | 第六節 検地と貢租、課役 | 第七節 建築 | 第八節 絵画 | 第九節 第九節 | 第十節 | 第十一節 | 第十二節 | 第十三節 | 第十四節 |
| 第一節 第一節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 | 第一節 第二節 |
| 1 藩主家の交替 | 1 慶安検地の概要 | 1 銅製御正軒 | 1 天正検地 | 1 はじめに | 1 各時代の領主と慶安以前の検地 | 1 明神社社殿 | 1 刀剣 | 1 楽器 | 1 はじめに | 1 宽永年間の検地 | 1 慶安後後の検地 | 1 慶安検地 | 1 慶安検地 |
| 2 小笠原氏 | 2 白馬地方における慶安検地 | 2 鰐口 | 2 天正検地 | 2 広島新田村 | 2 広島新田村 | 2 諫訪社社殿 | 2 刀口 | 2 鰐口 | 2 はじめに | 2 寛永年間の検地 | 2 慶安後後の検地 | 2 慶安検地 | 2 慶安検地 |
| 187 | 187 | 185 | 180 | 176 | 175 | 174 | 172 | 170 | 168 | 166 | 164 | 162 | 160 |

第六章 江戸時代を生きる

プロローグ

第一節 松本藩の郷村支配

一 藩主家の交替

1 石川氏

2 小笠原氏

四 慶安検地

3 慶安後後の検地

1 慶安検地の概要

2 白馬地方における慶安検地

217

211

209

209

209

207

206

195

五 貢租の賦課と徵収

1 貢租の種類

2 慶安検地以前の貢租の賦課と徵収
3 慶安検地後の年貢の賦課と収納

第三節 宗門人別改制度と戸口の推移

一 戸口調査と宗門人別改制度

二 白馬地方の慶安家帳

三 宗門改帳の形式

四 転籍の手続きと宗門改めの実際

五 白馬地域における人口動態

第四節 新田開発と新田村の成立

259

266

269

272

274

277

279

第七節 村方争論

1 月夜沢山境内済一件

2 立の間と塩嶋新田村の草刈場争論

3 細野入松川山五ヶ村争論 4 熊ヶ入山論

5 千国村と塩嶋新田村の争論

6 塩嶋村・塩嶋新田村と切久保との争論

第八節 赤蓑騒動

一 時代背景と環境

二 発端

三 騒動の経過

四 小谷の騒動

五 その結果

六 赤蓑騒動の意味するもの

第九節 交通運輸

一 古代の道筋

二 「千国道」の初見と安曇・松本地方の千国道

三 道の名付け方

四 近世の千国街道の道筋と里程

五 目で見る千国街道

六 一里塚と道しるべ

一 地震 272

1 正徳四年の地震 2 善光寺地震

3 安政の地震

二 水害 274

3 雪崩

四 困荒 277

1 一里塚

2 道しるべ

五 その他の職

| | | |
|----------------------|----------|-----|
| 七 その他の主要道路 | 330 | |
| 八 千国古道 地蔵・三坂峠越え | 335 | |
| 九 千国と飯森の文献初出 | 337 | |
| 十 千国口留番所 | 339 | |
| 1 千国宿 | 2 千国口留番所 | 346 |
| 十一 四ヶ庄の荷継所と塩島新田開発 | 347 | |
| 十二 街道往来の物資 | 347 | |
| 1 信越交流の歩み | 347 | |
| 2 下り荷（北荷）と上り荷（南荷）と塩荷 | 348 | |
| 3 信越交易の物資 | 349 | |
| 4 古老の語る千国街道 | 350 | |
| 十三 牛馬と中馬稼ぎ | 351 | |
| 十四 道と橋 | 352 | |
| 十五 信越（海陸）文化の交流 | 353 | |
| 第十節 諸職 | 372 | |
| 一大工・杣・木挽 | 372 | |
| 1 宮大工横田氏と地元の大工・杣 | 380 | |
| 2 他の地からきた大工 | 384 | |
| 二 石工 | 384 | |
| 三 木地屋 | 386 | |
| 四 鍛冶 | 386 | |

第十一節 教育と学芸

一 絵馬と扁額

387

387

1 絵馬の成立ち

387

2 沢渡神明宮所蔵の絵馬

387

3 嶺方諱訪神社所蔵の絵馬

387

4 奉納古絵馬の例

387

5 切久保諱訪神社の所蔵の扁額

387

二 松韻閣の由来と文芸

387

三 二僧塚と西行伝説

387

四 庶民の文芸

387

五 巡礼の記録

387

1 白馬村にのこる巡礼の記録

387

2 奉納百番供養塔

387

3 西国三十三カ所観音霊場巡礼

387

4 板東三十三カ所観音霊場巡礼

387

5 秩父三十三カ所靈場巡礼

387

6 四国八十八カ所靈場遍路

387

7 西国・板東・秩父巡礼と四国遍路の記録

387

8 納経帳から見た巡礼の行程と日数

387

9 西国・板東・秩父・四国・伊勢・富士への巡礼参拝の記録

387

10 白馬村の石造三十三体觀音

387

11 佐野坂西国三十三番觀音

387

12 堀之内西国三十三番觀音

387

13 丸山西国三十三番觀音

387

14 荒崎西国三十三番觀音

387

15 観音原西国・板東・秩父百番觀音

387

四 真相寺跡秩父三十四番観音

六 寺子屋と筆塚

1 寺子屋の発生と師匠の身分

2 寺子屋の教授内容

3 江戸期に建てられた筆塚

三 寺檀制度と廃仏毀釈

4 福聚山真宗寺

第十四節 人びとのさまざまな信仰

一 修 驗 道

二 遍照光院使僧のお祓くばり

三 念 仏

四 伊勢 信仰

五 戸隠 信仰

六 石造文化財にみる人びとの信仰

1 庚申信仰

2 観音信仰

3 道祖神信仰

4 大黒天信仰

5 二十三夜待

6 地蔵信仰

7 その他のさまざまな信仰

七 木食山居の仏像彫刻ほか

八 そ の 他

第十二節 人びとの暮らし

一 生活の規制

二 衣 服

三 食

四 住 居

五 村づきあい

第十三節 神社と寺院

一 神 社

460

参考文献

1 諏訪神社 2 青鬼神社 3 菖蒲神社 4 西峯神明社

5 北野社 6 北野社 7 嶺方諏訪神社 8 熊野神社

9 八方諏訪神社 10 平川神社 11 白馬村護国神社

12 神明社 13 飯森神社 14 神明社 15 城嶺神社

16 神明宮 17 子安神社

459

455

450

448

445

444

444

444

444

444

444

444

444

444

444

1 寺子屋の教授内容

2 寺子屋の身分

3 江戸期に建てられた筆塚

433

491

493

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

494

1 示現山長谷寺 2 祥雲山貞麟寺 3 玄光山東徳寺

483

社会環境編（上）執筆者一覧（住所、執筆項目）

荒井今朝一 大町市平 第五章 武士の支配と動乱の時代

第一、二、三、四、五、六、七節

第六章 江戸時代を生きる

第二、三節

篠崎健一郎

大町市常盤

第一章 概説

第五章 武士の支配と動乱の時代

第八、九、十節

第六章 江戸時代を生きる

第一、六、七、八、十、十二、十三、十四節

第六章 江戸時代を生きる

第九、十一節

第二章 原始林に生きる

第三章 稲を作る人たち

第四章 古墳を造った人たち

第六章 江戸時代を生きる

第四、五節

山岸 洋一 白馬村北域

田中 欣一 白馬村神城

江戸時代を生きる

第六章 江戸時代を生きる

第八、九、十節

第六章 江戸時代を生きる

第一、六、七、八、十、十二、十三、十四節

第六章 江戸時代を生きる

第九、十一節

第二章 原始林に生きる

第三章 稲を作る人たち

第四章 古墳を造った人たち

第六章 江戸時代を生きる

第四、五節

山岸 洋一 白馬村北域

江戸時代を生きる

第六章 江戸時代を生きる

第四、五節